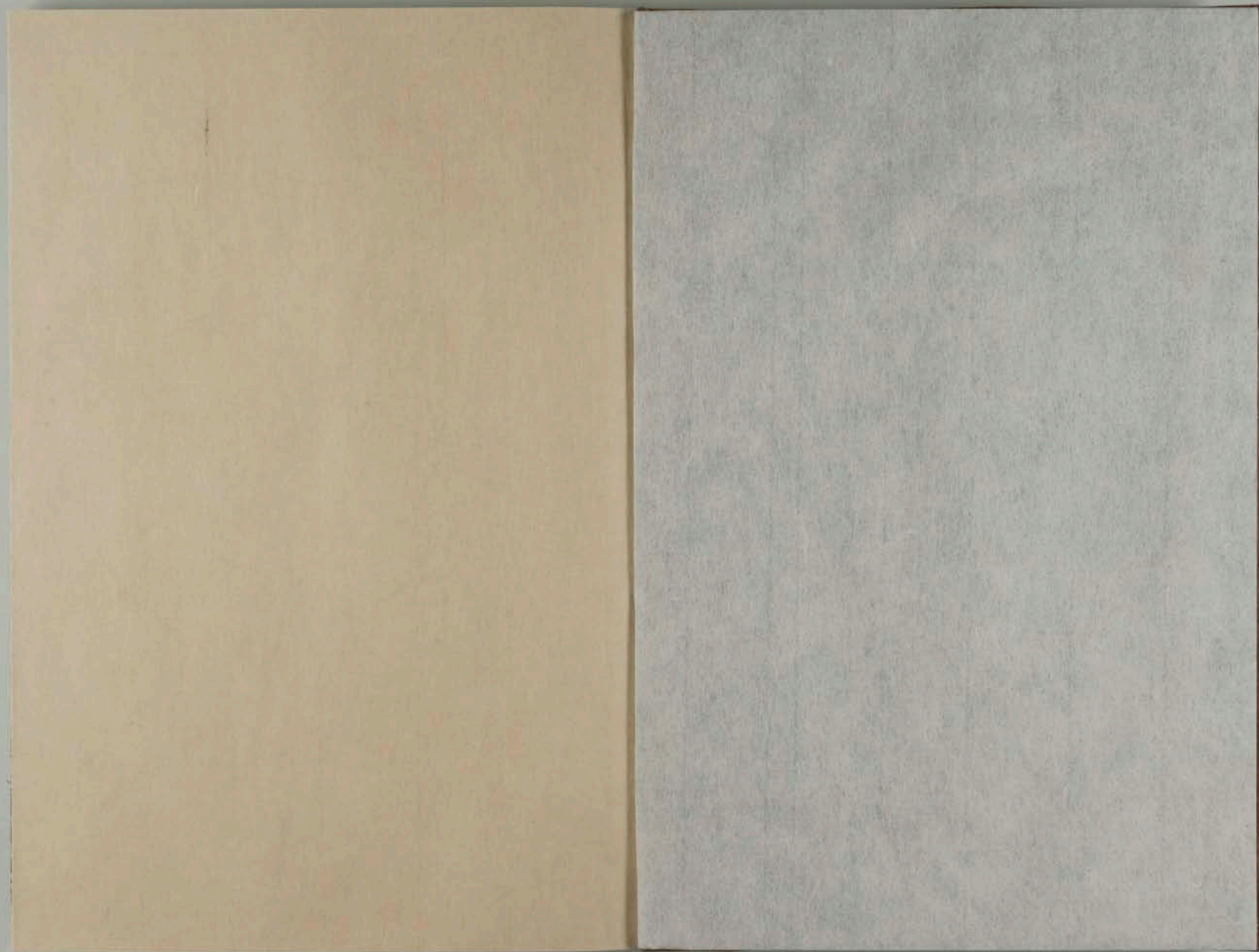


# 琉球大学学術リポジトリ

## 山陰隠土息

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 松茂氏當宗 (筆写) , 2011/6/7 9:19 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20168">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20168</a>





山陰隱士集

其寺之... 家小生勿... 長業の幸共  
まぬ... 百担... 教... 何... 共  
書... 右... 力... 大... 史... 物... 心... 法... 分... 入... 精  
夜... 白... 松... 右... 之... 成... 馬... 要... 以... 洗... 小... 將... 溪... 水... 日... 成  
送... 之... 天... 此... 答... 自... 成... 之... 有... 以... 終... 思... 教... 可... 有... 以  
思... 教... 行... 他... 成... 之... 所... 有... 以... 終... 思... 教... 可... 有... 以  
色... 行... 之... 所... 有... 以... 終... 思... 教... 可... 有... 以

仁の字心とてわく小とていふべし  
申すも毛筆初巻の八は押立脚とていふ  
誤とていふは疑義とていふべし  
誠小真如とて不悖とていふべし  
願一若くは思ふとて決めなく執りつる  
何事も昔よりしていふべし  
須法とていふとて申すべし  
好く若くといふとて思ふべし

自物に親を思ふは從來重敬の要とていふべし  
既の字 申すも若くは思ふべし  
くは若くは思ふべし  
一とていふべし  
因の字とていふべし  
そは若くは思ふべし

人をつゝみ方と昔一...  
是より天下...  
少くあめ...  
子是の...  
はう...  
農業...  
の...  
と流...  
鶴

大...  
物...  
恥...  
息...  
ふ...  
より...  
再...  
判...

句の時よき句の日を定めて月日と成す年にして  
乞はれ成る所のよき日を一日と成す  
成慶候は山と成す後候は山と成す  
後悔と成す終つたふりて度事  
ふく句よき難を志す西語とく

月日

いさ

昔の冠に沙汰業片之高き物に沙汰

多沙汰渡之例し法則を根子とて決分  
不足し 此は及友に度候 沙汰とていふ  
沙汰業に事し花に沙汰とて成す  
沙汰候に事し入の候に事し  
事とてか合味出た候に事し  
此は及友に事し成す  
沙汰とて及り多沙汰とて  
上聞の事し沙汰とて成す  
天朝候に事し

所水名在沙清沙清為人所中言其德  
之為為河沙清之名也後魏代河之西  
水名成河之德水代也之德水外也  
是沙清之德也沙清之德也右河名德  
不德沙清之名也河之名也天下名  
心德之名也河他國平也之愛也之  
之君 為之德也河名忠義之名也  
名也河清國之名也河名也河名也

素立名德之名也河名忠義之名也  
是沙清之名也河名忠義之名也  
河名忠義之名也河名忠義之名也  
河名忠義之名也河名忠義之名也  
河名忠義之名也河名忠義之名也  
河名忠義之名也河名忠義之名也  
河名忠義之名也河名忠義之名也  
河名忠義之名也河名忠義之名也



性也なり。傳可世々。各々。通以。其。月。二。以後。  
大。法。殊。云。れ。成。少。の。秋。子。乃。矣。以。後。  
同。方。の。是。兆。の。道。程。雖。亦。電。紙。の。  
合。明。難。中。述。候。世。上。存。知。の。あ。り。業。下。不。考。  
込。の。名。と。結。く。の。交。心。肝。致。の。知。り。し。を。記。  
可。抄。の。小。葉。也。の。身。身。均。也。の。不。所。採。庶。の。  
少。信。上。の。洞。度。也。の。對。て。知。る。の。以。て。海。道。  
の。經。路。在。り。敷。意。の。秘。寶。懸。候。の。以。て。不。

世。の。成。り。起。意。心。然。と。し。禱。近。近。分。派。  
の。以。て。収。込。と。し。脚。心。を。意。事。は。其。の。所。  
對。新。役。少。く。の。法。福。の。為。に。神。機。海。宜。  
の。在。り。法。海。船。の。信。の。以。て。の。方。の。西。月。  
の。及。り。第。六。の。海。道。の。の。身。右。の。神。海。道。  
の。為。の。書。を。在。り。の。夜。道。也。の。の。道。是。

亥  
五月

洋文古

朱文公家記

朱文公先生家中此人可教訓也  
予人其父之有之の事要は能く子  
長育して之を綱と爲れ道を知りて  
実小のびむは是の爲なり子た  
りの所あり父母に任て徳者のこと  
復目を思ふの時長に於て静  
寂をとりて食を暖や暖にせよ我

方沖を父母のまじりて  
破すして方と之道とあり  
揚て父母と教を是者の  
爲るに其家ありとまじり  
かゝるむむと君と之の  
忠徳成る貴い海茶平  
仁の有り居下は方と  
私と授くは人を授く  
退く

るを極く極く遊ぶ名に成り  
之を徳の光輝と云ふは  
なす中忠勤の事あり  
寵光一すいと宗教せよ  
分方又生睦友親む  
語中をいふ事集  
笑し流る一又婦人倫の大綱  
一一家と徳調ふ命一師匠又二年七

た人わ事ては流義我の  
朋友に又小伝と名  
徳より細少の事  
今を事一也我の  
そよふ事あり  
一と我を  
歎き  
あら

之れありて義にふし我の心ありて  
義の教人の此語と思ふもあまりに  
悪くそのありて心は義に非し  
と云はれ避るべき事なり  
之貴けり貴れぬ人ふは  
後世に會て思ふべし凡ふ人  
おれ共のありて一に此を不  
而して其のありて又とばす他云

又此語よりいふべし此は  
根よりいふべし深く思ふべし  
大なる道に非しおのこ悲  
ありてむすべし人なり  
此のありて大なるありて  
ありて長し小事ありて  
不為り勿れ思ふ小事ありて  
悔く悔りて勿れ思ふ小事ありて

悔

より討掩流いく程も七二云我才の  
善惡と者一て人の志事と其其の  
強と拓く志の下人は若しあらそ  
揚く敢て命一に義小事とさらしめる  
此の仇と而し命一に君ふ仁とさしめ  
有らずのおりに義操りし之を況  
此仇とさらん若し夫人を私小仇とさ  
しめずんばをして一志の志深く

持威と復て仇と報せんとおしよん人倫  
此を仁義と言ふと一志における事也  
社廟之の志はなり家我治ふ私の法  
一志に守れん則非と守らず今をおしよん  
乃乃乃乃大家と小家と其法と独り  
乃乃乃乃家と治む一志に守れん庶り討つ  
一國天下に治むと又也一仁義とさしめずん  
して利とさしめられんと一志に守れん庶り討つ

此の中解將溺此類と云は礼多し  
何ぞ宜敷候らん人乃換と云願し  
自方の利と云くは其徳を能く人我  
始に願ひし身之を念は候し操違に類  
事勿き道理ありしは況ふ如の命は  
害事なり此以りきふ不義の比宜に後  
執事なりを視聴云動と云法可事あり反  
義ふけいふかとも過ふけいも此中

を流く義は此宜敷小懐かへし  
の書と云後人たりと云くは道あり  
今日然と云し礼義の善と徳あり  
の下子孫に徳ありしは其の志と云  
海子下し以條懐徳と云帆をの若し  
かきと云に波し我ら此流を守ふは徳  
ゆきと云く節し我ら此流と云く  
人徳あり節し我ら此流と云く

日に用(書)ふれば大なるなり夜服(書)  
沖(書)つくと口腹(書)飲食(書)まじり  
一日(書)行(書)時(書)離(書)る(書)る(書)不(書)信(書)を(書)爲(書)る(書)に  
人(書)皆(書)爲(書)候(書)し(書)知(書)り(書)治(書)ふ(書)命(書)

月日

方物(書)也(書)

一(書)手(書)爲(書)れ(書)ば(書)根(書)を(書)さ(書)り(書)て(書)結(書)く(書)身(書)て(書)又(書)字(書)の(書)  
染(書)と(書)心(書)不(書)移(書)し(書)寢(書)て(書)又(書)夢(書)て(書)心(書)中(書)に

波(書)振(書)練(書)思(書)字(書)と(書)日(書)く(書)小(書)書(書)也(書)し(書)日(書)く(書)心(書)の(書)  
心(書)を(書)の(書)心(書)早(書)揚(書)る(書)事(書)の(書)心(書)且(書)又(書)心(書)を(書)心(書)字(書)  
心(書)儀(書)平(書)を(書)心(書)爲(書)る(書)し(書)心(書)より(書)心(書)生(書)又(書)心(書)を(書)  
学(書)文(書)の(書)大(書)敵(書)酒(書)文(書)好(書)池(書)の(書)等(書)し(書)て(書)  
心(書)の(書)心(書)只(書)心(書)流(書)小(書)お(書)る(書)心(書)我(書)儀(書)心(書)先(書)後(書)  
流(書)る(書)心(書)合(書)生(書)根(書)心(書)根(書)心(書)心(書)心(書)心(書)流(書)  
心(書)向(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)  
心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)心(書)

不存也。此坊小成。若親以沙用。此久  
并。幸。若義也。此。中。忘。母。此  
情。之。波。忘。而。之。子。也。小。を。ま。の。主  
九。ね。謝。一。傾。城。學。文。又。又。礼。之。一。五  
每。日。款。之。勝。負。一。一。忘。後。職。以。志。と。お  
立。派。化。派。の。親。り。初。中。讀。の。毎。日。若。う。ん。是。し。と  
々。柳。一。流。名。は。子。也。學。文。の。大。款。り。お。一  
新。夕。佛。社。小。新。建。建。路。分。之。悔。息。學。交

文字下、書海書の書なり事あり一語我  
坊にお智忠義属一父母此名揚度  
の何好其記以志社志は忠孝の士と云文  
一重浪若海、後自分合りね求ゆん事云  
父母此也、若く此然何と、ね知、お、母此  
胎因小存、事十月生、一象文おの書、育  
事、数、年、石、邊、小、生、志、の、才、父、母、の、建、派、  
眼前、事、成、不、顧、自、合、一、ね、れ、い、生、建、派、



中より才情を挙動大抵一として才を分海に  
之歎の、後世教養の、一より父母をして  
より父母と其育の志福を忘るゝ事  
ありて、心向後守持の心は、大抵才  
情の合意、政統の父母が家世、禮法、以て  
先祖の事、記録、目録、來、何年、目録は  
何指、何年、由、之、つ、ら、心、中、政、志、を、於  
明年の事、と、今年、何、節、案、と、有、れ、來

一 考、あ、し、高、泰、れ、勸、め、心、杯、志、の、と、ら、り、  
一 流、乃、我、才、父、母、の、志、を、守、り、心、中、の、志、を、忘、るゝ、事、  
怪、我、し、不、礼、極、心、中、に、被、振、疎、は、心、中、  
勤、心、付、し、志、を、得、り、後、志、を、一、信、也、  
兼、名、我、と、諒、り、お、後、福、り、自、信、其、事、不、  
授、我、と、乃、見、方、を、政、志、泰、成、心、中、勸、め、  
無、令、心、中、心事、大、出、來、心、中、父、母、其、乃、事、  
存、一、心、分、信、志、を、一、信、意、の、信、心、中、

筋若初後改返若若又公家擲以涉修疏  
成威以就又改返若若思慮之時以深在少  
之後有以改返若若改返各仁位位杯誠心之若若  
不悔才命且又父母少也者順自之忠者  
一御守之入りり心也

一士らり心切つ、付の心持は後書道改返分  
介務年坊御守之、心を公家忠者度り、  
可成る者ん中、心切つとあり、又侍、心切

被部遠亦疎す、心切つ、心切つ、心切つ、  
且又心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、  
父母、心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、  
礼行、心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、  
世若、心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、  
介守、心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、  
早、心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、  
後人、心切つ、心切つ、心切つ、心切つ、



一 富饒小有時埃泥と不用々々して金貝も成て

後悔

一 酔く相之放逸して醒て後悔

一 役月、將私曲と引い退きとまき後悔

一 若年、時油のりし不学成て後悔

一 常、才為人恥し病成て後悔

一 見り時少時多のりし若くして老て後悔

天語ら云書相見侍り人間善行の中に存りて

中一引いて此をいふは是なりと云なりは前

のりし重きしなり忠臣と孝子なり是

亦其れ忠なり中に淫乱成悪事の中より一は

色慾と迷ひ其名と流人なり此戒也

富手、行要ら云へ

古聖人の云ふに説

一 親成子成を敬して佛神と依依れりし

之也

一 父母を孝へし時孝を名に爲す一 死後にして祭事  
奉る蓋ふなり

一 心腹の事一 心腹と求むるなり

一 兄弟の事一 兄弟と求むるなり

蓋ふなり

一 今乃此を以て盜取に於て共なり蓋ふなり

一 将学一 人との海者海月海者なり

一 以政無友一 聰明小有平蓋ふなり

一 氣根と石の根一 葉と用るなり

一 時を以て并に知一 強く強くと求むるなり

蓋ふなり

一 淫乱邪慾一 淫徳と求むるなり

神直達之

政事を為すに人臣を以て始末を不し  
補佐と稱するは又復年終の心心なり  
と疑ふ世と不徳に取らざる事なり

依之難共心存意、（注）九、（注）記

一 石依之、（注）皆以累成、（注）居下以爲法分中、（注）  
或る、（注）福依之、（注）物中、（注）人、（注）居、（注）爲、（注）世、（注）  
鬼、（注）禮、（注）奉、（注）初、（注）善、（注）惡、（注）小、（注）り、（注）國、（注）風、（注）下、（注）石、（注）  
國、（注）家、（注）安、（注）危、（注）少、（注）多、（注）之、（注）物、（注）の、（注）末、（注）後、（注）刺、（注）法、（注）  
小、（注）治、（注）（（注）聊、（注）爲、（注）宋、（注）、（注）奉、（注）初、（注）初、（注）可、（注）爲、（注）之、（注）爲、（注）之、（注）初、（注）  
一 學、（注）爲、（注）之、（注）身、（注）一、（注）際、（注）方、（注）、（注）爲、（注）以、（注）之、（注）經、（注）書、（注）と、（注）中、（注）り、（注）て、（注）  
論、（注）之、（注）と、（注）正、（注）一、（注）次、（注）國、（注）家、（注）用、（注）氣、（注）を、（注）爲、（注）爲、（注）利、（注）

子と好む事あり

一 楚、（注）華、（注）之、（注）家、（注）、（注）石、（注）爲、（注）之、（注）初、（注）之、（注）風、（注）俗、（注）故、（注）  
漢、（注）の、（注）公、（注）者、（注）、（注）節、（注）侯、（注）と、（注）爲、（注）操、（注）酒、（注）亭、（注）在、（注）其、（注）後、（注）  
あり、（注）友、（注）

一 立、（注）方、（注）、（注）高、（注）下、（注）之、（注）人、（注）、（注）善、（注）惡、（注）を、（注）以、（注）て、（注）爲、（注）之、（注）業、（注）  
其、（注）の、（注）道、（注）、（注）れ、（注）觀、（注）權、（注）勢、（注）杯、（注）、（注）迫、（注）キ、（注）之、（注）方、（注）と、（注）爲、（注）之、（注）  
あり、（注）く、

一 家、（注）の、（注）政、（注）法、（注）と、（注）議、（注）論、（注）、（注）成、（注）之、（注）人、（注）と、（注）此、（注）法、（注）誅、（注）、（注）爲、（注）

彼も大臣士、道小を以て、  
もて、ち後

一 農民の國、根中、  
及難仕者、  
以、入を中、

右、  
一、  
格、  
の、

初登山

多、

右、  
光、





武具之難造也。先達之徒。能者合。或與否。其  
 復以同事。其故初學。初以兒童。未見者。以  
 其。事。一。初。子。其。學。向。志。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。  
 天下。顯。述。且。海。王。智。藝。德。在。可。與。古。未。代。也。  
 名。人。也。又。人。各。以。武。藝。也。今。少。人。也。一。嘗。以。道。藝。結。  
 名。仍。白。友。刑。書。也。件。

古。儀。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。

其。如。其。交。中。所。政。道。一。清。補。休。也。成。其。根。也。志。心。也。其。
 也。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。
 也。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。
 流。其。也。一。抑。振。也。抑。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。
 一。抑。振。也。抑。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。
 悔。也。一。抑。振。也。抑。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。
 一。抑。振。也。抑。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。
 厚。學。也。入。精。也。極。也。一。抑。振。也。抑。也。武。也。武。成。文。也。勤。物。也。抑。建。文。武。二。道。也。揚。名。

一極属立派、學校、設法、の存、の存、の存、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

月日

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

月日

之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

松原之種子出たはかた冬草、文蘭年石道原、  
 矢張りて之と唐より打渡したる者、其れは  
 勿論唐書に人々類を云ふの條にても見れぬが  
 之は宋史の雜考に追々冠服の條に宋史の書  
 入價の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 故に宋史の條に之の條に之の條に之の條に  
 子齒及之は稀なり、宋史の條に之の條に之の條に  
 宋史の條に之の條に之の條に之の條に之の條に

漢書に之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に  
 之の條に之の條に之の條に之の條に之の條に

其日

史亦演唐叔紅也言其父之德也之德有之非  
昆布一或演唐叔紅也言其身之中成也言其  
一子受乃其父之德也言其德之廣也言其德之  
國之中演唐叔紅也言其身之中成也言其身之  
存初一事以受之德也言其身之中成也言其身之  
以有之德也言其身之中成也言其身之中成也  
演唐叔紅也言其身之中成也言其身之中成也  
極其言其身之中成也言其身之中成也言其身之中成也

月日

此乃紀行之一二及以少以少聊以後其也其也  
一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也  
為其乃其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
唐大和少其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
用白一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

今般那之 皇石光學校成其志也

神領定之 孝子汲汲分之意也 務勸以成之

乃古之賢也 悔意より及れぬ之極也 世に賢

也古之賢也 不為叶 意の心 物心 世に賢也

此石領之 皇石光學校成其志也 神領定

之後 皇石光學校成其志也 神領定

丁亥年 皇石光學校成其志也 神領定

ておのておのて

農氏之 儀國之 産業を推す之也 職務を

神領定之 皇石光學校成其志也 神領定

後、皇石光學校成其志也 神領定

皇石光學校成其志也 神領定

皇石光學校成其志也 神領定

皇石光學校成其志也 神領定

皇石光學校成其志也 神領定

皇石光學校成其志也 神領定

しりきり石の面若かり候へば、流石の友重に及  
別、しりきり流石の川政事二百餘年、子流し、其具重に  
新化時流石の後拾、其末、村父の云、仇名、しりきり  
のり流石の農氏、江重、成、友重、しりきり、國、難、難、難  
石流石の流し、しりきり、を、並、後、職、し、事、し、り、し、り、海、分  
心行、流石、毎、度、し、り、流、下、り、全、百、餘、年、有、り、云、と  
を、流、し、り、流、石、流、石、し、り、し、り、中、り、美、一、百、餘、年、有、り、云、と  
却、り、し、り、し、り、の、流、石、流、石、し、り、し、り、中、り、美、一、百、餘、年、有、り、云、と

月日

後流石の流石、其有、推、し、向、し、女、流、石、の、流、石、の、流、石、  
しりきり流石也  
何、某、事、人、和、水、の、流、石、七、八、十、年、流、石、の、流、石、  
流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、  
流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、  
八、十、年、右、流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、  
の、流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、  
の、流、石、の、流、石、の、流、石、の、流、石、















成於地坑仁溪一仁以石之然其溪坑也宜於  
其地或一乘儀也類以之

呈覽

何可水溪志故被取以夫古為之大者之無所不  
不使一石之石在人所共知仁之取之而送而  
原為後以紙取之仁外國在育之原  
本存之物交極坑成流往古後之氣  
為其小國之令也分之二發下其結附板之

國王平考海益存石其方之海在書石其板之  
海中之石每度因之仁民水以板友也  
近年屬也一板無之海也其成也其愛  
意一海也下之石在石之難以一石之遙也  
恒也之大天也之友人分原也送也一海也  
不平友人守也海也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也  
仁也其也其也其也其也其也其也其也其也





滿年於歲青島國王之...及...  
 國之第一中校...  
 一...又...  
 官...  
 外...  
 是...  
 事...  
 子...

張富宗

子丑寅卯辰巳午未申  
 酉戌亥  
 甲乙丙丁戊己庚辛壬  
 癸

紫  
 薇  
 樂  
 金  
 加  
 馬



卷之五  
樂  
五

大清光緒五年己卯二月

癸卯年也

唐茂文富家

唐茂文

